

「インフラミュージアム」完成

岐阜大にトンネルや橋の実寸モデル

1940年代から
現在の工法
技術者育成に活用

岐阜大（岐阜市柳戸）が構内に整備していた「インフラミュージアム」の設置記念式典と除幕式が21日、現地で行われた。橋やトンネルなど土木構造物の基本構造などを、実物大のモデルを見ながら学ぶことができる設備。インフラの維持管理に関わる技術者の育成に役立てる。

（稲木悠司）



「インフラミュージアム」を見学する式典出席者ら＝岐阜市柳戸、岐阜大

同大正門横の南駐車場に、トンネル、鋼橋、コンクリート橋の三つのモデルを設置した。本年度中に盛り土モデルが完成する。モデルには1940年代から現在までの工法が組み込まれており、工法の変化なども学ぶことができる。

式典には、森脇久隆学長をはじめ、整備に協力した企業などの関係者約200人が出席。除幕をして完成を祝った。

同大工学部付属インフラマネジメント技術研究センターの沢田和秀センター長（49）は「普段見られない古い工法を間近で観察できるのが強み。（同大がインフラ維持管理者を養成する）社会基盤メンテナンスエキスパートの学習はもちろん、企業の研修などでも活用してほしい」と話した。

トンネルや橋 実物展示 岐阜大にインフラミュージアム



展示された鋼鉄の橋桁やコンクリート橋を見学する関係者ら＝岐阜市柳戸の岐阜大で

ない部分をあらわにしたり、工法による構造の比較などができるよう、工夫している。

インフラの老朽化や維持管理が社会的な課題となる中、同大が養成する技術者「社会基盤メンテナンスエキスパート」などの教育に活用する方針。同大の沢田和秀教授は「学生の教育、企業や官庁の技術者養成、新技術開発の題材などにも、活用していきたい」と話した。

同教授によると、古い橋を大学構内に移設したケースはあるが新設するのは全国的に珍しいという。(井上仁)

トンネルや橋などの実物大の土木構造物を教材として展示する「インフラミュージアム」の設置記念式典と見学会が二十一日、岐阜市柳戸の岐阜大であった。

キャンパス内の駐車

場の一角の幅約五十メートル、奥行き約八メートルのスペースに、コンクリート橋や鋼鉄の橋桁、トンネルの断面を展示。高速道路の土台などに使う盛り土も、本年度中に完成する予定。実際の施工後は目視でき